

検討テーマ「安全・安心のきずなづくりに向けて」

【第2回区民会議（平成22年10月13日開催）委員意見・提案の整理】

<防災訓練の実施からコミュニティ形成>

- ・ 実際に避難訓練をやると、恐らく区民の防災意識は高いので、人間関係的なつながりはないけれども、訓練に参加するのではないか。そこからコミュニティが生まれる可能性がある。（稲富委員）
- ・ 人間関係を構築することは本当に難しいことだと思う。イベントの立ち上げから考えていくと何もできなくなってしまう。既存の組織、イベントを活用して、そこから人間関係を派生していく方法もある。（鈴木委員長）
- ・ 防災は非常に興味を持っている方が多く、防災訓練をやると、町会に加入がない方も防災訓練には出てきてくれる。それにより、防災の新しい仲間が増え、町会に加入する人も増えてくるのではないか。（松原委員）
- ・ 区民会議で何ができるか考えると、短期的なことで、既存組織を連携させ防災訓練の実施などが考えられるのではないか。また、地域ごとに特徴がある。（板倉委員）
- ・ 中原区地域教育会議などと連携して、中学校区ごとの避難訓練を実施したらどうか。（大下委員）
- ・ 全区一斉の避難訓練を呼びかけする。（芳賀委員）

<コミュニティ形成・人間関係構築>

- ・ 自分の命は自分で守る、自分たちの町は自分たちで守る。向こう三軒両隣の人間関係が大切である。（青木委員）
- ・ 人間関係が非常に希薄になっている。人間関係が確立できれば、いろいろな難しいこともできるのではないか。（・房委員）
- ・ 「向こう三軒両隣」の話しがあったが、災害時の声掛けなど互助の精神で実施できないか。（川崎委員）
- ・ 周辺の危険箇所を集めてマップづくりをやるなど、簡単なこと、出来ることから始めることでコミュニティはつくられる。（・房委員）

<既存組織・制度の連携>

- ・ 民生委員で行っている「災害時一人も見逃さない運動」で、高齢者、ひとり暮らし老人等々は把握できているが、障害者に関しては行政から名簿をいただけないため分からない。障害者の情報を得てあらゆる情報を含んだマップ等が整備できたところで、自主防災組織と連携して訓練を実施したい。（富岡委員）
- ・ 自助努力でどこまでできるかが前提となる。次に、向こう三軒両隣、町内会、民生委員が連携できるか。さらに、行政がどのように連携できるか。（杉野副委員長）

<情報発信>

- ・ 今回紹介された防災に関する制度を知らなかった。また、災害時には若い力が必要となる。既に地域に定着しているイベントで若い人も含め、制度について情報発信したらどうか。(反町委員)
- ・ 人が多く集まる場所に、防災の備えなどの掲示物や自分の避難所の地図などを張り出しする。また、「こんにちは赤ちゃん事業」の訪問の際に自分の避難所が何処かなどをお知らせしていく。(松本委員)

<子育て世代への対策>

- ・ 子育て中の世代に向けての防災意識の構築が必要である。(藤嶋委員)
- ・ 乳幼児の家庭向けの防災ハンドブックを作成し、子育て世代に必要な情報提供や意識づけを行っていく。(松本委員)

<その他>

- ・ 問題点が広範囲に分散している。アイデアを絞ってまとめていく必要がある。(・房委員)
- ・ 区民会議は審議機関であるが、区民会議として何ができるかを考える必要がある。(鈴木委員長)
- ・ 再開発地区では、独自のワーキンググループが立ち上がり、消防署や警察署と連携して防災の勉強会を実施している。(村山委員)